

微臭舊稿(其一) 我日本ノつゝじ

にまがふなる 花見女の手三味線 其の賑ひを他所にして 酒を片手の安兵衛に 切つても切れぬ高田の馬場も 指して行くく道草むしり 酔つて倒れる源藏に 其の名もゆかりの赤羽や 集る同勢六十四名 霞に續く川沿ひの つゝみ切れない喜に かげろふもえて水清き 彼方に見ゆる荒川の 變れば變る人達や 藪を求めて草探し 鳥の名問ひし業平の びなんかづらやまざさのかづら 義理に絡るかづら共 陰に苦勞のひかげのすみれ やまほとゝぎすの吐いた血か 垣を彩る藪山茶 うぐいすかぐらのたよたと 傷づけまいぞや猫の目草 浮世の苦勞を外にして 二人づれなる二輪草 其れを見とりつ老を待つ うばゆりの花の末長き 百歳千歳を祝ひつゝ 舞ふか舞鶴天南星 しても志村に打出れば 金は要らぬよ黄金の色敷きつめし野漆の 間に交りてひめあまな あまなの色の清きにも してもにつくきたかあざみ 白花堇の色あせて 流れの儘のうさがやや 其の名もゆかりの墨堤の 墨染の衣に世を捨てし 土筆の圓き頭あり 益齋芹や野唐松 中にも名高き櫻草 しても其の色の紅は 香も高き白菖湯に あかみ帯びつる乙女子の 頬の色にもまがひつべく 蓬の髯の荒男も 摘みとりまじき風情なり

○微臭舊稿(其二) 我日本ノつゝじ

(明治四十四年五月十日東京、日の出公論社發行『日の出公論』第一卷第一號)

牧野富太郎

つまらんモノデハアルガ是レ迄イロ／＼ノ雑誌ナドニ出シタ舊稿ヲ時々本誌ニ再録スル事ニシタ其レハ何ンデモ私ノヲ成ルベク此雜誌ヘ纏メテ置キタイ主意カラデアル、舊イやつダシ且ツ中ニハ勿々間ニ合セニ書キナグッタモノモアルカラ鹵莽誤謬モ無論アルニ極ツテ居ル又後ニハ新發見モアツテ今ハ既ニ舊説トナツテ居ルモノモ多イ讀ンデ下サル方ハ其時代ノ氣ニナツテ見テ下セ！ (假名ハ皆片假名ニ直シタダ物ノ名ダケヲ平假名ニシタ)

我國ニハつゝじ類ノ品種ガ多ク山野ニハ勿論植込ナル庭ニハ大抵つゝじ類ノ栽エテナイ處ハ無イ位デアルガ

古來ヨリつゝじ類ノ花ヲ賞スル所カラ園藝上ニ多クノ珍種ヲ出シ其花ノ色ト容トニ千態萬狀ヲ呈シテ居ル
つゝじノ種類ハ植物學上デハ種ニ分チ更ニ進ンデ園藝上デハ品種ニ別ツテ居ル通常植物學者ハ各自ノ種徴ニ就
テ思ヲ凝シ園藝學者ハ主トシテ其種中ノ變リモノニ就テ品階スルノデアル

つゝじハ漢名ニ躑躅ノ字ヲ充テ、アルガ植物學上デハ通常ロードデンドロン屬即チしやくなげ(石南)屬ニ入
レテアルガ園藝ノ方デハ一般ニアザレアノ名ヲ用キテ居ル此アザレアノ名ハ乾燥ノ意ナル「アザレオス」ヨリ
出タモノデつゝじノ類ハ乾燥シテ水分ノ少ナイ土地ニ生育スルカラ此屬名トシテ此アザレアノ名ヲ命名者ノリ
ンネ氏ガ選ンダモノデアル始メテ其名ノ生レタリンネ氏ノ時代(今ヨリ凡百五十八年前頃)ニハ此つゝじ屬ト
しやくなげ屬ヲ兩立サセつゝじ屬ヘハ花中ニ雄藥ガ五ツアツテ葉ノ冬ニ落チルモノガ編入セラレしやくなげ屬
ハ雄藥ガ十アツテ冬ヲ凌イデモ尙ホ葉ガ落チナイモノガ編入セラレテアツタガ其後新シイ種類ガ發見セラル、
ニ及ンデつゝじ屬ヘ入ルベキ品種ノ中ニ十雄藥ノ花アルモノモ又葉モ冬尙ホ綠ナルモノモ出テ漸次しやくなげ
屬ト區別ガ付カナクナツテ來タ其處デ植物學者ハつゝじ屬 *Azalea* トしやくなげ屬 *Rhododendron* ト合併シ
テ今デハ全體ヲ *Rhododendron* ノ屬名デ綜ベルコトニナツテ居ルガ園藝ノ方面デハ今尙ホつゝじ類ノ舊名ア
ザレアデ通シテ居ル

しやくなげ類トつゝじ類トハ一見シテソノ區別ガツクガコレヲ植物學上ヨリ看レバ類似ノ點、寧ロ同揆ノ點ガ
多イ葉ノ大小、厚薄并ニ殘落ノ點ハ屬中品種ノ異ナルニ從テ亦相同ジデナイガ其花ノ構造ハしやくなげ類モつ
ゝじ類モ共ニ同一デアル即チ其花冠ハ多少偏形デ側向シ其上方ノ裂片ハ其左右ノ裂片ヲ併セテ花筒ニツヰキ特
別ノ斑點アルハ昆蟲ノ飛來スルトキノ目印デアル又雄藥ノ葯ハ上端ニ特別ニ二ツノ孔ガアツテ之レカラ花粉ガ
出ヅルノデアルガ此花粉ハ蜘蛛ノ絲ノ如キモノデ互ニ相聯絡シ少許ノ花粉ガ昆蟲ノ肢體ニ著ケバ殘リノ花粉ハ
此絲ノ聯絡デ次第ニ出テ來ル様ニナツテ居ル

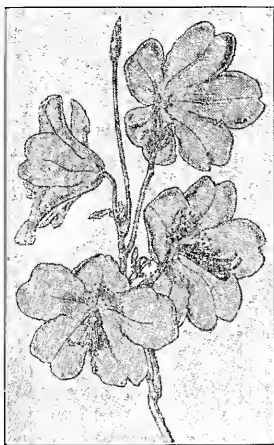
微臭舊稿(其二) 我日本ノつゝじ

つゝじヤしやくなげノ花ヲ觀ル人々ハ誰モ此等ノ花ニ斯ノ如キ特狀ナルコトニ氣付カヌデアラウガ植物學者ハ此等ノ花ニ對スレバ其花ノ美ヲ賞スル上ニ更ニ此ノ如キ妙趣ヲモ併セテ味フノデアル

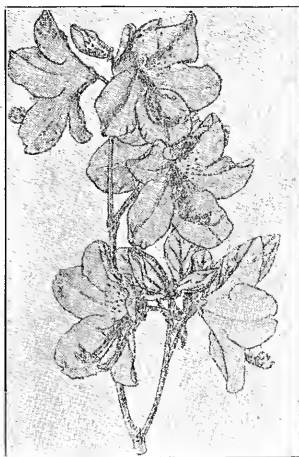
つゝじニしやくなげ類ヲ編入シテ我邦デ植物學者ガ認メテ區別シタつゝじノ類ニ左ノ品種ガアル(園藝上ノ種類ヲ加フレバ更ニ幾十倍ノ異品ガ得ラレルガ)

つゝじノ名ヲ冒シテ居ルモノ假令バいはつゝじ、うらしまつゝじ、どうだんつゝじ、あぶらつゝじ、ほつゝじ、はこつゝじ、いそつゝじ(同名アリ)、えふらくつゝじ、こえふらくつゝじ、つりがねつゝじ并ニはこねこめつゝじ等ハつゝじノ名ヲ伴ヘドモつゝじノ屬トハ別ノ品種デアル、○つくししやくなげ○みつばつゝじ○かはつゝじ▲しやくなげ○とさのみつばつゝじ○あかやしほ○ほそばしやくなげ○こばのみつばつゝじ○ごえふつゝじ○しろしやくなげ○れんげつゝじ○りうさうつゝじ○きばなしやくなげ○くろふねつゝじ▲むらさきりうさう○せいしくわ○むらさきやしほつゝじ○たうつゝじ○ひかけつゝじ○もちつゝじ○うんぜんつゝじ○さくらつゝじ▲さいぎやう▲しろばなうんぜんつゝじ○おほばつゝじ▲せいがいつゝじ○こめつゝじ○ほんつゝじ○ふぢつゝじ▲おほこめつゝじ○やまつゝじ▲さつき○えぞむらさきつゝじ▲まるばさつき○げんかいつゝじ▲きりしまつゝじ○ばいくわつゝじ▲むらさきさきりしま○えぞつゝじ▲みやまきりしま▲みそめきりしま▲むらさきやまつゝじ等デアル(▲符ノモノハ變種)

しやくなげヲ分テバ南北トスルコトガ出來ル南品トハ九州カラ四國ヘカケテ山中ニ生ズルモノデ殊ニ大隅ノ屋久島ノ山中ニハ大樹ガ多イ普通ニハ世人ガ之ヲしやくなげト呼ンデ居ルガ吾人ハ之ヲつくししやくなげ或ハおほしやくなげ【原文ニおほしましやくなげトナ】ト稱シテ居ル此品ハ花冠ガ七裂片ニ分レテ居ルカラ直グ區別ガツク、コレハ我が邦しやくなげ類中ノ王デ花體大キク花毬モ亦從ツテ大キク花色モ鮮カデ花期ニハ其優美ノ姿ヲ山谷ノ間ニ展ベルノデアル、しやくなげガ始メテ泰西ノ學者ノ眼ニ入ッタノハ即チ此品デアツテシーボルト氏ノ書



あかやしほ



くろふれつゝい

ニハ其圖説ガ出テ居ル、吾々ノ單ニしやくなげト呼ンデ居ルモノハ右ノつくししやくなげノ一變種デアル」〔原文訂正シタル今〕コレハ我邦ノ中部ヨリ北部ニ亙ッテ山中ニ生ズルモノデアル伊豆ノ天城山、野州ノ日光山中ナドニ見ラレル其花冠ガ五裂シテ居ル點ガ前者ノつくししやくなげト異ル所デ其他ハ同一種デアル

○ほそばしやくなげハ大體しやくなげト同一デアルガ其葉ガ狹長デアルカラ直チニ區別ガ出來ル此種ハ遠江三河ノ信州界ノ山中ニ限ラレテ居ル花ハしやくなげト同型同色デ花冠ハ五裂デアル
○くろふねつゝいハ我邦ノ土產デハナク原ト朝鮮方面カラ渡來シタモノデアル

○もちつゝいハ園藝品トナッテ居ルガ此種ハ關西地方ノ山地デハ普通自生シテ居ル其新葉ヤ芽鱗ヤ花梗並ニ萼片ガ粘着スルカラもちつゝいト呼バレテ居ル▲せいがいつゝいハ本種ノ園藝的變種デアルガ泰西ノ學者ハコレヲ一種特立ノ品デアルト誤解シテ居ル
○かはつゝいハ四國中國邊ニハ川邊ニ自生シテ居ッテ土佐ノ仁淀川緣ニテハ之ヲいそつゝいト呼ンデ居ル庭園ニ栽エラレテわかさぎト稱セラル、ノハ即チ本種デアル

○あかやしほハ我國ノ特產デ中部諸州ノ深山中ニ生エルガ又四國九州ノ山中ニモ之ヲ見ルノデアル今東京デ冬ノ内ヨリ枝ヲ水ニ挿シテ置ケバ春早ク淡紅ノ花ヲ開キ宛モ造花ノ觀ガアルモノガ即チ

此あかやしほデ上州邊カラ送ッテ來ルノデアル野州日光ノ山中ニモ多クアッテ花時ニハ甚ダ見事デアル此あかやしほニ對シテしろやしほト呼ブモノガアルガコレハ別種デ花色白クあかやしほヨリ少シ後レテ開花シ一名ゴえふつゝじト稱シテ居ル此種トあかやしほトハ其葉ガ五枚ヅ、車輪ノ様ニ枝端ニ叢生シテ居ル

○うんぜんつゝじ、今日うんぜんつゝじト呼ンデ居ル細葉小花ノつゝじハ決シテ溫泉岳ノ産デハナイ書物ニモ肥前ノ溫泉岳ニ産スル様ニ書イテアリ又大槻氏ノ言海ニモ『初メ肥前ノ溫泉岳ニ出ヅ』ト記シ又世人モ其様ニ思フテ居ルガ其レハ大ナル誤リデアル溫泉岳ノつゝじハ細葉小花型ノつゝじデハアルガ今世ニ言フ所ノうんぜんつゝじデハ決シテ無イ此溫泉岳ノつゝじハみやまざりしまト稱スル別種ノつゝじデ今ノうんぜんつゝじトハ些ノユカリモ無イ種類デアル

▲さつさハやまつゝじノ變種デアッテ普通ノ庭園ニモ見ラレル其葉ニ長イモノト圓イモノトガアッテ自分ハ甲ヲ單ニさつさト稱ヘ乙ヲまづさト新稱シテ居ル共ニ自生モアルガ此自生ノ事實ヲ植物學界デ明ラカニシタノハ近年ノ事デ自分ガ始メテ其事實ヲ發表シタノデアル即チさつさノ自生地ハ紀州并ニ大和ノ南部又大隅ノ屋久島デアッテまづさつさノ自生地ハ肥前ノ福江島デアル

▲さりしまつゝじハ霧島山ノ産デハナイ日向ノ霧島山特ニ同山中ノ韓國岳ノ山嶺近クハ細葉小花型ノつゝじガ自生シテ居ルガコレハ霧島種デハナク矢張前述ノ肥前ノ溫泉岳ノ細葉小花型ノつゝじト同一種デ即チみやまざりしま(自分ノ新稱)デアル此種ハ尙肥後ノ阿蘇山ニモ自生シテ居ッテ九州ノ高山つゝじハ是レデアル此みやまざりしまハやまつゝじニ最モ近キ品デ山ノ中腹邊以下ニアッテ其葉ノ少シ薄ク大キクナッテ居ルモノハやまつゝじト殆ンド區別ガシ難イ程類似シテ居ル無論やまつゝじトハ別種デナク同種中ノ兄弟同士デアル

霧島山ハ斯クざりしまつゝじノ故郷地デハナク同山ノモノハ全ク別ノ種類デアルニ拘ハラズ丁度前述ノうんぜんつゝじヲ溫泉岳ノ原産デアルト誤解シテ居ルノト同ジ様ニ矢張ざりしまつゝじヲ霧島山ノ原産ノ様ニ認メテ

福江島ハつゝ、じノ聞エタ產地デアル此等ノ島ヲ詮索シタナラバさりしまつゝ、じノ或ハ原產地點ヲ得ルコトガ出來ヤウカト思フ自分ハ去ル明治四十一年九月同島ヘ植物ノ採集ニ行ツタ事ガアルガ同島西南角ノ大瀬崎ノ無線電信局ノ邊リノ山地デさりしまつゝ、じラシイモノヲ見出シタ當時秋デ花ハ無カッタガ其葉ノ末端ガ鈍圓デ葉形モ小ク又葉面ニ光澤ガアルナドカラ見テモさりしまつゝ、じト思ハレルノデ始テさりしまつゝ、じノ原產地ヲ發見シタト思ツテ大ニ喜ンダガ次年ニ其花ノ標品ヲ見ルニ及ンデ大ニ失望シタ、ソレハさりしまつゝ、じデハナクまゐるばさつきデアッタカラデアル然しさりしまつゝ、じデハ失敗シタガ我日本デまゐるばさつきノ自生地ヲ得タノハ有益ナ新事實デアッタ、ソレハ此まゐるばさつきハ從來我邦ニハナイト泰西ノ學者ガ思フテ居タカラデアル○げんかいつゝ、じハ朝鮮デハ普通ナつゝ、じデ葉ニ先ダチテ通常紫色ノ花ヲ着ケ恰モみつばつゝ、じノ如クデアル而シテ同品ハ數年前タゞ僅ニ對馬ノ山中ニ生ズルコトガ明ラカニナッタ

▲みそめさきりしまト云フ園藝品モアル泰西ノ學者ハコレヲ一種特立ノ品ト思フテ居ルケレドモ、コレバやまつゝ、じカラ變ツテ來タ園藝品デアル此品ニ就テ面白コトハ其花冠ガ退化シテ小形トナツテ居ルニ拘ハラズ其雄藥ハ依然トシテ舊態ヲ保持シテ居ルコトデアル、ソレ故其雄藥ガ高ク花冠ノ上ニ抽キ出テ頗ル不釣合ナ姿勢ヲ呈シテ居ル

右ノ外つゝ、じ類ニ就テハ未ダ書クコトガ多イケレドモ此レ位デ筆ヲ擱カフ